

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Bコート	第2試合 10:30~													
<チームA> 桐光学園 神奈川 1位		87 <table border="0"> <tr><td>25</td><td>1Q</td><td>23</td></tr> <tr><td>21</td><td>2Q</td><td>13</td></tr> <tr><td>19</td><td>3Q</td><td>12</td></tr> <tr><td>22</td><td>4Q</td><td>13</td></tr> </table>	25	1Q	23	21	2Q	13	19	3Q	12	22	4Q	13	<チームB> 東海大学菅生 東京 4位		
25	1Q	23															
21	2Q	13															
19	3Q	12															
22	4Q	13															

【Aブロック】

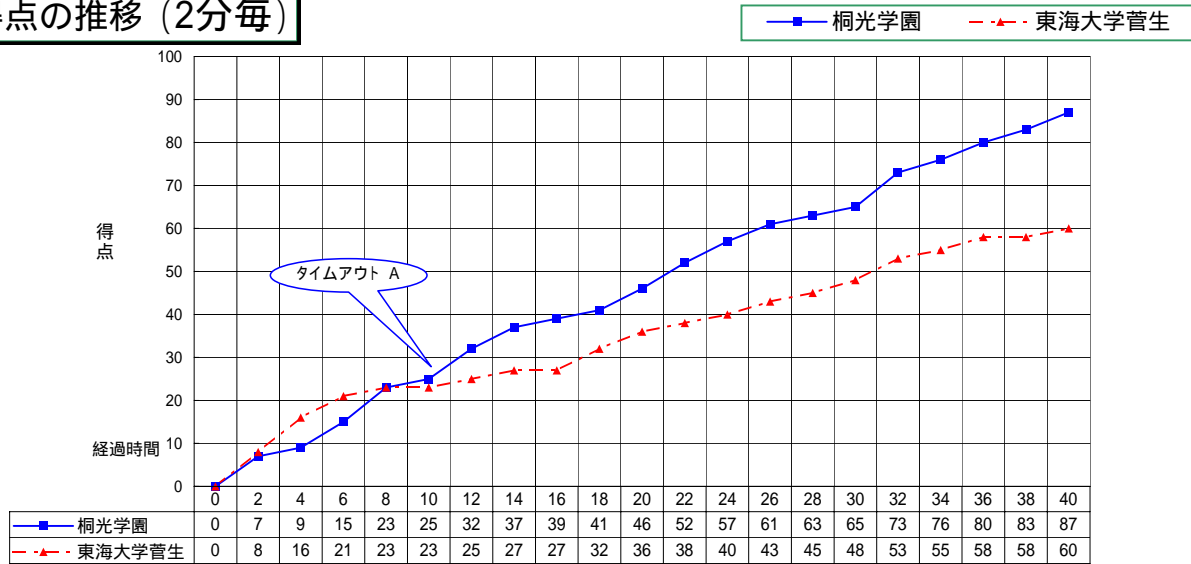
主審：安西 郷史(本部) 副審：一色 渉(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	藤居 大地	2		1		3
	5	井上 雄也	21		10	1	1
	6	菊地 和雄	4		2		3
	7	山口 隆樹	15		6	3	4
	8	林 拓摩	2			2	
	9	大澤 慎平					
	10	菊地田 知起					
	11	齋藤 一稀	17	2	5	1	2
	12	原 圭佑	14	3	2	1	3
	13	松林 謙太	2		1		
	14	林 大地					
	15	横澤 翔平	8		4		1
	16	山川 雅史					
	17	西野 樹					
	18	牛来 柊	2		1		2
コーチ		高橋 正幸					
合計			87	5	32	8	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	入野野 良	15	3	2	2	4
	5	河崎 翔太					
	6	石井 秀					1
	7	鈴木ディオソ	11		5	1	2
	8	諏訪 祐弥					
	9	白水 達博					
	10	西川 康					
	11	高山 師門	8		3	2	1
	12	石川 悠					
	13	下館 暁	3		1	1	1
	14	西久保 匡美					
	15	八田 紗佳希					
	16	大野 竜一	7		3	1	1
	17	白垣 一樹	4		2		1
	18	山田 典政	13		5	3	5
コーチ		小山 正男					
合計			61	3	21	10	

：スターター / ：出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記入者： 大里 浩

第1P、両チームハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。東海菅生(以下 菅生)は 入野野の速いドライブイン、センター 鈴木のゴール下からのオフENSEを軸に加点する。一方、桐光学園(以下 桐光)は 井上のドライブイン、 齋藤の3pシュートと内と外を使った攻めで、25-23と桐光リードで第1P終了。
 第2P、桐光のディフェンスが光る。ハーフコートからの菅生 鈴木へのポストマンへのプレッシャーと足を使った粘り強い対1のディフェンスで、菅生オフェンスを7分で4失点に抑える。残り2分、菅生 下館のバスケットカウントや 高山のハイポストからのミドルシュートで応戦するが、間髪入れずにタイムアウトで対応した桐光リードの流れを変えられず、46-36桐光リードで折り返す。
 第3P、菅生のセンター 鈴木と 山田を中心に果敢に詰め寄るが、桐光の速いブレイクにかさみ、焦りの色を隠せない。その後も桐光は内と外を使ったバランスの良いオフェンスで、更に点差を広げ、65-48と桐光リードで第3Pを終了する。
 第4P、菅生 高山と 鈴木のゴール下で、リバウンドに望みをかけるが、桐光は慌てず対応、スクリーンアウトをしっかりと行い、菅生にリズムを掴ませない。桐光は第4Pに入っても衰えない足を使った攻めと、状況に応じた冷静なゲームコントロールで菅生に隙を見せず、87-60で勝利を収めた。全体的に見ると、身体的な差はないが、ルーズボールやリバウンドでのボール支配率といった玉際の強さや、経験に基づいた落ち着いたゲーム展開を見せた桐光が菅生を寄せ付けなかった。